

先日、P T A役員会があった。どの校種でも同じような会がある。それぞれ、その場の雰囲気の違いがある。小学校、中学校、高校の役員会は経験がある。だが、幼稚園の役員会は、今回が初めてである。他との大きな違いは、机といすではないところだろうか。

わかってはいたが、参加者唯一の男性が自分だった。とりあえず、どんな感じなのだろうかと様子を見るという常套手段に出た。口を挟んで、その場の雰囲気が変わるのもどうかという思いもあった。

結論として、いすがないということもあるが、堅苦しくはない雰囲気だった。これであれば、会議というよりは、座談会という感じである。この方が、かえって中身のある協議ができるような気がした。

主任の先生の話によると、役員会に参加してくださった皆さんは、この「園長通信～こころ～」を読んでくださっているとのことだった。そうであれば、話は早い。スマホで読んでみるとわかるが、文字が小さく、二本の指で拡大しながら読むことになる。それは、申し訳なく思う。

こういった少人数による役員会があると、いろいろな話をする事ができて、有意義である。多くの方が集まる総会や全体会とは違ったよさがある。幼稚園には、他の校種との大きな違いがあった。役員会の開始時間が、8時40分だった。朝、子どもを幼稚園に送ってきて、そのまま役員会となる。合理的と言えれば合理的である。

ここ数年で、多くの小学校、中学校が、P T Aの組織や活動内容を見直している。その方向性は、一言で言えば、縮小である。一方、幼稚園のP T A活動はというと、従来のものである。きっと、保護者の協力が得られやすいのだろう。また、幼稚園スタッフの人数が少なく、保護者の協力をお願いしたいという実情もある。

4月2日から、幼稚園に勤務し、お世話になっている。一つ気をつけていることがある。幼稚園には、今まで築き上げてきたもの、表現を変えれば、流れのようなものがある。その流れにうまく乗らなければならない。自分が入ったことで流れを止めるようなことがあってはならない。それは、P T A活動も同じである。

その一方で、外部から入ってきたからこそ、1年目だからこそ気づくこともある。それは、園が抱える課題や改善点のようなものかもしれない。長くいると、気づかなくなる、見えなくなるものがある。それが当たり前になっており、前年度踏襲や例年通りという思考に陥りやすくなる。

子どもの後ろに保護者がいると、よく言われる。だが、幼稚園の場合は、子どものすぐ後ろ、いや隣に保護者がいるように思う。子どもを大事にするということは、保護者を大事にするということである。P T A役員会に参加してくださった保護者の皆さんのおかげで、いろいろなことに考えを巡らせることができた。感謝申し上げたい。